

SAK だより

Ski Association of Kanagawa

(財)神奈川県スキー連盟

横浜市神奈川区台町16-1 ソレイユ台町407号室

電話 045 (311) 8907 FAX 045 (324) 6966

●発行者：山田 隆 ●編集責任：徳本 進

http://www.sak.or.jp/

「スキーの世界が 変わりつつある」

続く、スキー人口の減少傾向。これをプラス方向に変えていこうと、全日本スキー連盟(SAJ)は2004年シーズンに新しい施策を打ち出した。「日本スキー教程『技術と指導』の全面改訂」や「検定制度の変更」などがそれだ。SAJ教育本部の広報委員として教程づくりにかかわってきた、上田英之SAK総務本部理事に話を聞いた。

▽新しい教程の一番の特徴は。

これまでの教程は、アルペンのトップ選手の滑りを分析してつくられてきたもので、どちらかというと方法論の域を出ていませんでした。

新教程は、誰かの滑りを分析するのではなく、日本独自の物理的理論を展開しています。論理的なアプローチを試みた教程は、おそらく初めてではないでしょうか。

山に「おれ」

▽物理的理論をわかりやすくしよう。

新教程のパート3「技術指導の内容について」を執筆した市野聖治さんの展開する技術論は、二つの方向から板の動きをとらえています。これまでの前後の動きに、横方向への板の動きを加えました。板が谷にずれれば今まで通りの「テールコントロール」と「トップ&テールコントロール」。これが、山にずれれば「トップコントロール」になるわけです。

山にずれるとは、板の推進力によって斜面に圧力がかり、板が斜面に食い込んでいくイメージです。ごく単純な物理的理論ですが、どの国でも取り入れてない「内向、内傾の理論」をひもときました。

カービングスキーを履けば、一般スキーヤーは大きな力や運動を加えなくても、板の性能だけで回ることができ



上田英之SAK総務本部理事

る。ブルークボーゲンから練習しなくても、いきなり平行のままターンできる可能性があるというわけです。

これは、今までの指導体系をひっくり返すものです。「ソツソツ階段を上る」ようにうまくなっていくのではなく、一番上のレベルにパラシュートで降り立つことも可能かもしれません。

「1ヶ月で過激にソツソツ」か

▽具体的に改訂作業はどのように行われたのですか。

私が参加したのは、新教程編集会議の作業委員会です。2003年の4月から9月まで10回ほど行われました。一番議論したのは、「1ヶ月で過激な理論を出しているのか」ということでした。

SAJのある理事がヨーロッパに行った時、「地元をはじめとする各国のナショナルチームの選手が外向傾の練習をしているのを見た」という話もあり、この「内向、内傾の理論」に賛否両論はあったのですが、それでも掲載でき

たというところがすごいと思つてます。

話し合いのほぼ3分2の時間は、「目的と手段」や「原因と結果」に対する考え方や「どこまでオープンに出すか」といった、骨子にかかわる議論に費やされました。

長い議論の間には、スキー技術論に偏りそうになることもありましたが。そんな時、いい意味での「破壊者」となったのが、SAJ教育本部で広報委員長を務める山田隆SAK専務理事です。雪なし県の人たちの立場を代表して、「スキー人口が減少しているこの時期に、技術論に終始しては都会のスキーヤーはついてこない」と主張したのです。

「教程(へり)の作業過程をSAJのホームページでオープンにしたのも、新しい試みです。7月に「新教程と検定制度の概要」を、9月に新教程の全

「2004年シーズンに変わった主なできごと」

- 日本スキー教程「技術と指導」が全面改訂
- 用語の変更
「基礎スキー」→「スキー」
「ゼッケン」→「ビブ」
「技能テスト」→「バジジテスト」(プライズテスト、級別テスト、ジュニアテストの総称)
- 指導員育成の教材が6冊から4冊に減
- プライズテスト、1・2級テストの「実践種目講習テスト」を廃止し、「種目テスト」に一本化
- 指導員検定に「単位制」を導入し、取得単位は3年間有効に



全面改訂となった日本スキー教程「技術と指導」

貌を明らかにし、その後、新教程の解説を載せました。検定や教程に関する変化は、みんなが一番知りたいと思っていることです。広報委員会の役割として、過程をオープンにすることは重要だと考えたのです。通常のアクセスが週で6千件ほどですが、この時は3万件ほどに跳ね上がりました。

▼MSAKとSAJの作業と本来の仕事をごなす上田さんにとって、冬は時間が足りないのでは。SAK行事から帰った晩に作業します。車山研修で午後4時ごろ帰ってこれたら、めつけもの。そこから徹夜です。5年間、そんなシーズンを送ってきました(笑い)。

「受検しやすい」指導員検定に

▼用語も変わりました。

「基礎スキー」は「スキー」と呼ぶことになりました。競技スキーに対する基礎スキーという特殊なイメージを払しょくするためです。そもそも、スキーの基礎って何でしょう。トップコントロールができれば、プルークボー

ゲンを習得せずに、いきなり両足平行で滑れる可能性があるのです。

ほかに、語源がはっきりせず、どうやら日本の造語らしい「ゼッケン」は「ビブ」に、「技能テスト」はよりなじみの深い「バジッテスト」という用語を使うよう、SAJ教育本部の規約が改正されました。

▼指導員検定に新しく「単位制」を導入したことで、受検しやすくなりました。

実技はA(ニールコントロール3種目)・B(トップ&ニールコントロール3種目)・C(トップコントロール2種目)単位、理論はD単位の、合計4単位に分けています。取得した単位は、3年間維持できる。受検者が継続的に挑戦できるシステムに変わりました。受けやすくなりましたが、受かりやすくなったというわけではありません。

SAJ側としては、受検者が受かるまで各都道府県スキー連盟に育成のバックアップをしてほしいという狙いがあります。SAKでもこれに合わせて、目的別の養成講習会の実施など、将来的に検討していきたいですね。▼MSAK界は、変わりつつあると思いますか。

教程が変わり、SAJにも広報委員会が立ち上がるなど、目に見えて変わっていると思います。スキー学校の大会「スキーサミット」では、「なぜスキー

場が嫌われるのか」といった突っ込んだ議論も行われました。ただ、まだまだこれからです。コツコツ変えていかねばなりません。

▼MSAKは、こうした変化にうまく対応しているのでしょうか。

非常にアグレッシブに対応していると思います。今年3回目となる環富士山スキー技術選手権は、参加人数が1年目の100人から280人へと激増しました。これだけ参加者が急増した行事はほかにありません。

3年前からは千葉県スキー連盟と共同でスキー技術選大会を行っていますし、去年スタートした、一般スキーヤーでもポール競技を体験できるチャレンジカップも好評です。SAKはスキー好きのボランティアが集まった団体です。ホームページづくりなどSAKで経験したことを生かし、SAJでも貢献ができれば良いと思っています。

(インタビュアまとめ・大井智子)



一般スキーヤーの声

「環境山スキー技術選など基礎系の大会で、ヘルメットやワンピース姿の選手を見かけるようになった」(40代男性)
「グレンデに子どもが増えた。映画「私をスキーに連れてって」を見た世代の子どもたちでは」(40代男性)
「グレンデでスキーを履いた20代の若者を見かけない」(30代女性)
「イタリアのグレンデには2、3%のボーダーしかいなかった。欧州ではものすごい勢いでボーダーが減ってスキーヤーが増えている」(50代男性)

- SAJ正指導員検定会合格者
(第1会場) (北海道)
丸山 京子、山本 学、五十嵐公一、奥山 寛、河辺 邦彦、黒川 誠、宋居 正樹、佐々木信利、堀谷 将彦、柴山 寿治、鈴木 和裕、隅 徳穂、高橋 豊、初森 進、林 哲也、半沢 裕司、村上 正敏、吉田 俊史、若松 康之
(第2会場) (尾瀬石巻スキー場)
根本 晶子、遠藤 良一、海藤 寿恵、楠本 三典、佐々木宗統、佐々木忠無、鈴木 徹哉、高木 康之、武井 智栄、前田 徹浩
SAJ準指導員検定会合格者
会場：車山高原スキー場
日程：平成16年3月5日(日)～7日(日)
町田 哲男、西畑久美子、小柳 新一、野中 竹雄、川岸 保貴、岡畑 文子、綿貫 幸男、原泉 光弘、笹生 修一、堀池 章夫、富沢 秀幸、山内 望、中野 真男、富川 和也、小森 昇、川村 毅、森原 伸、小森 桂一、富川 貴幸、山井 英生、水野 毅、内村 直人、笹野 邦彦、見供 正章、川崎 肇、友藤しのぶ、桑野 善文、加藤 昭子、深谷友紀子、鈴木 忠信、濱崎 一央、高橋 勉、加賀 一有、真壁 拓也、山上 隆、野田 恭世、鈴木 知美、笹沼 康典、高橋 智明、小野 聡枝、長田 雄一、山口 晴孝、大澤 恵美、及川たけり、大野 律子、中浦 陽子、佐々木系子、吉田 恵、高橋 友香、熊谷 耕二、渡辺 康子、中谷 耕一、土方 泰斗、櫻岡 美和、岩澤 聡子、早川 安、桑原 高志、野口 真樹、岩見 美穂、青木 秀之、望月 卓子、泉谷 美和、三浦泰次郎、坂本 佳彦、田中 彩美、岡田 千臣、石井 統文、丹野 俊昭、中西 義憲、久保 玲子、田邊 洋一、松下 直生、大日方 健、谷口 玲奈、許淵 直子、木村 泰子、松山 大樹、松枝 修平、石崎 朋美、長谷川智樹、原 智志、前川 悠、石川 隼人、中村 浩章
会場：車山高原スキー場
日程：平成16年3月5日(日)～7日(日)
B級検定会合格者
佐藤 賢司、片瀬 文雄、小澤 順治、柴山 寿治、高木 康之、前田 徹浩
C級検定会合格者
藤井 俊光、白井 利伸、田村 美紀、杉村 光晴、大久保さゆり、石井 哲次、渋谷 正樹、山田 千鶴、富岡 秀樹、沼澤 孝司、加茂 博己、金子 昭宏、大川 広樹、藤井 利唯、南雲 実、秋田 昌彦、吉田 拓未、奈良 浩
◎平成16年度B/C級検定会合格者
会場：車山高原スキー場
日程：平成16年3月27日(日)～28日(日)
B級検定会合格者
坂岸 義雄、黒川 誠、初森 進、林 哲也、佐々木信利、山田真志志、上山 裕幸、宋居 正樹、河辺 邦彦、石崎 朋美、吉田 俊史、半沢 裕司、渡辺 雅史、堀谷 将彦、諸岡 晃、前田 龍也
C級検定会合格者
小柳 新一、成田 俊昭、高橋 勉、笹生 修一、山内 望、富川 和也、尾崎 武彦、富川 貴幸、水野 邦彦、大平 竜也、岡田 千臣、見供 正章、藤原 仁磨、桑野 善文、加藤 昭子、深谷友紀子、濱崎 一央、山上 昇、野田 恭世、鈴木 知美、富川 秀久、石崎 徹一、池田 貴信、笹沼 泰典、高橋 智明、保坂 研一、長田 雄一、重田 道保、及川たけり、大野 律子、中浦 陽子、高橋 友香、渡辺 直子、清水 篤、中谷 耕一、櫻岡 美和、岩澤 聡子、早川 安、島居 高志、青木 秀之、新堀業穂子、三浦泰次郎、樋口 健司、坂本 佳彦、大藤美佐枝、小野 聡枝、松藤 良一、田中 彰美、丹野 俊昭、田邊 洋一、久保 玲子、谷口 玲奈、袖山 大樹、長谷川智樹、中西 義憲、大澤 恵美、川井 英生、川岸 保貴



第59回 山形もがみ国体

平成16年2月21日から24日の日程で、第59回山形もがみ国体が行われた。競技は、ジャイアントスラロームが最上町の赤倉温泉スキー場、距離が真室川町の秋山クロスカントリー・コース、ジャンプ・複合は山形市の蔵王温泉スキー場の3会場で行われた。本県選手では、GS成年男子Bの下村泰則選手が7位入賞、GS成年男子Cの北野教正選手が9位でポイントを獲得した。

昨シーズンあと少しというところで参加できなかった国体。やはりこの名の響きは特別なものがある。今シーズンは国体をめざしスケジュールをやりくりし、決して万全といえる状態ではなかったが予選を迎えることとなった。雪不足で「上越国際で予選ができるのかな？」と不安になることもあったが、スキー場関係者の努力のおかげで無事予選を迎えることができた。昨年はシートが悪く140番台のスタートでコース任せといった感じであったが、今年は第1シートで滑ることができた。(それでも荒れてはいたが…)今回驚いたのは神奈川県の国体への取り組みだ。健康診断に始まり結団式



山形もがみ国体に参加して
シヨーンナンキツズ
比留間 悟

トレーナーの帯同など、他県から出場した昔のことを思い出すと選手としてはうれしかきりで「何とかポイントをと」という思いが参加役員、サポートからも強く伝わってくる。自分の滑りに集中できる環境が整っているのだ。会場の赤倉スキー場の近くにはトレーニングできるスキー場がなく、少し宮城県に入ったオニコウベで事前合宿を行った。このあたりは雪質の変化が激しく、以前プロレースで来たときもワックス選定で苦労した覚えがある。それは会場の赤倉も同じらしく、山形や長野の選手に聞いてもお互い腹のさぐりあいとなった。風と雪にみまわれ思ったような練習はできなかったが気合い十分での現地入りとなった。開会式では旗手を務めさせていたのだが、この神奈川県の旗が他県と比べても見ても大きい。おそろしく1.5倍くらいある。横にした時など身長180cmの僕が背伸びしながら持つてもかなり苦しい。周りを見ると女性の旗手もいるのだが、この旗はかなり手ごわいのでないかと勝手に想像してしまった。

赤倉スキー場のコースは斜面変化があり、さらに人工のウエーブも3箇所ほど付け加えられた本格的なGSコースである。連日暑いぐらいの好天に恵まれ、プロフィールを十分に生かしたレースが行われたが、2日目だけは想像を絶する悪天候となってしまった。前夜より強風が吹き、さらに雪が積もり、それが大会終了時まで続いたのである。リフトも当然動かず(二人乗りの椅子が風にあおられ2回転していた。初めて見ました)下から踏み上げとなり2度のスタート位置変更。いったんは中止の決定後、コースを半分短縮してのレースとなった。レースを完結させたということで、地元役員、関係者の努力は想像を絶するものだったと思う。コース係りの高校生に聞いたところ、毎朝4時集合で歩いてコースを何往復もしたそうだ。こんなことができるのは国体以外ではありえないと感心する一方で、スケジュールに予備日があればこのすばらしいコース全体を使用してレースができたのに・・・という気持ちが生まれてきた。レースを中止にしないという努力は尊いが、スキーというスポーツとしてはどうなのか?という疑問も感じる。ある意味消化試合になってしまったのでは?自然の中で行うスポーツである以上、様々なコンディションがあるのは当然理解できるのだが…。前日、翌日と好天に恵まれ、当日だけが悪天候という今回のもがみ国体だったが、スキーの楽しさを再度認識することもできた。来シーズンに向け今後とも頑張っていきたいと思う。

**初めての国体
相模女子大高校**

三浦 奈々

1月19日、新潟県上越国際スキー場で神奈川県国体選考会が行われました。選考会で選ばれたときは、驚きと不安でいっぱいでした。各県から上手な人ばかりが集まるので、「色々なことを学んでみよう!!」と考えていました。

オニコウベでの事前合宿では、いつもの大会で見るみんなの滑りとはまた違う滑りが見られて、とても新鮮で勉強になりました。

国体では開会式に参加するのが、私の楽しみにしていたことの一つでした。「以前からテレビで見ている、あの華やかな開会式に自分が出るんだなあ」と、わくわくしていました。神奈川県選手団は青い小旗を持つての入場でした。会場の観客席だけでは入りきらず、会場の外にも沢山の人があふれていました。実際の開会式は、テレビで見るとよりも華やかでした。

地元の人々の歓迎は、国体の開催を心から喜んでいるようで、とても温かく感じられました。「雪清く 人あたたかく 夢熱く」という大会スローガンのように、最上の人々は、みんな優しくかったです。

国体は、普段の大会と違って選手や関係者の方の年齢の幅が広いので、最

初は緊張していました。大人の方が滑りのアドバイスをして下さったり、生活態度について私たちの気がつかないところをはっきりと指摘して下さいました。とてもありがたく思いました。

特に、神奈川県の手は成年と少年との仲が良かったと思います。というのは、成年の人がけんだまやバランスボールで楽しませてくれたからだと思います。そして、スキーが上手になりたいという同じ目標をみんながもっているの自然と打ち解け、県の選手団が一つの大家族のようで楽しかったです。ミーティングで成年の人に言われた、

『練習は量より質！！高校生は一本一本を大切に練習しなさい』という言葉をお忘れずに、これからも頑張っていきたいです。

みなさん、ほんとにありがとうございました。そしてお疲れさまでした。



**平成16年度のスキーボード
行事を終えて**

S A K スノーボード委員会

小池 光

平成16年度のスキーボード行事は例年同様、12月のスキーボード教室(北海道)に始まり、スキーボード指導員養成講習会及び研修会、レベルアップ講習会、バッジテスト、スキーボード準指導員検定を開催し、競技部門ではレーシングキャンプ、FIS公認大会、技術選手権、スキーボードチャンピオンシップを行いました。競技部門はFIS公認大会が今期

より2大会開催となり、うち一つはスキーボードクロスを初めて開催しました。この大会はトリノオリンピック出場につながるレースということもあり、国内の有力選手が多数エントリーし、大変盛り上がりました。また、技術選手権はSAJ技術選手権の地区予選として行われ、こちらもSAJ技術選手権で第1回デモンストレーター選考会が併催されるということでした。レベルの高い大会でした。また、従来開催されているスラローム競技は今期よりシリーズ化し、多数のエントリーが期待されましたが、第5戦・第6戦についてはエントリーがわずかでレース不成立となったことは残念でした。こちらのシリ

ーズ戦は再考し、出場する立場から出やすい大会を作ることが必要だと思っています。

教育行事は規約改正からのシーズン経過し、指導者側、受講者側とも今の仕組みにだいぶ慣れてきました。指導する側では滑走方法、指導方法の理解度が増し、受講者への指導が以前に比べ的確になりました。その結果受講する人が以前より短い時間で上達するようになり、バッジテストの受検者合格者が増え、今季のスキーボード準指導員合格者数は昨年の2倍増という結果をもたらしました。しかし、スキーボード指導員資格取得後の活躍の場はまだ少ないのが実情です。今後は全体のレベルアップに加え、これらのことも考えスキーボード行事ができればと思います。

スキーボード委員会は小規模な組織ですが、少しでも多くのスキーボーダーが参加できるようにがんばってまいります。

今後とも各方面からのご支援ご協力をいただければ幸いです。



FIS公認スキーボードクロス

1位 鹿野 季子 (横浜スキークラブ)	2位 梅澤 直樹 (横浜スキークラブ)	3位 三島 直樹 (シニア)	4位 木村 明子 (富士通)	5位 坂本 千子 (富士通)	6位 大回戦 男子 鹿野 季子 (横浜スキークラブ)	7位 大回戦 女子 キヤブ W/Kラス (鹿野 季子)	8位 大回戦 女子 キヤブ D/Kラス (鹿野 季子)	9位 大回戦 女子 キヤブ C/Kラス (鹿野 季子)	10位 大回戦 女子 キヤブ B/Kラス (鹿野 季子)
---------------------	---------------------	----------------	----------------	----------------	----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	------------------------------



指導員会だより

幹事長 藤木 昇



スキー指導員会とは…

幹事長 藤木 昇

スキーシーズンも終わりましたが、今年は特に去年と違う感覚のシーズンだったように感じています。

指導員会とは「指導員の連携と資質向上を目指す親睦団体」という事になっていますが、今年は「指導員はスキーの楽しさを伝える使命を担っている」との意識で、スキー界の活性化を第一に考え、一般のスキーヤーも巻き込んだ行事を企画し、スキーの楽しさをPRしました。

従来の研究会や大会等の行事は、残念ながら前年割れという状況でしたが、ウィークデーフリースキーのような昔のスキーヤーを掘り起こす企画と、個別技術テーマ別の講習やポール講習が好評で、定員を超える活況も体験しました。
資格を超えたスキー愛好家の団体が、指導員会としての将来の方向を示して

いるとの感覚を持った次第です。

スキー指導員の原点に軸足を置いた活動にしたいと考えています。

スキーの楽しさを指導員が仕掛ける会を目指しましょう。

行事レポート

1. スキーの性能を生かすためのコンディション（体力）トレーニング講習会
2. スキーの性能を生かすための雪上トレーニング講習会 12月
3. 第17回特別研究会 1月
4. 2月草津特別企画 2月
5. 第4回車山チャレンジカップ 2月
6. 第23回オール神奈川スキーヤーズ大会 2月
7. エンジョイスキーエト小海 3月
8. 第20回指導員会フェスティバル 4月

体力トレも大切です



2月は草津でツルツル



指導員会からのお願い

今シーズンみごと準指導員に合格された皆さん。

入会手続きをまだされていない方、入会をお待ちしております。

神奈川県スキー指導員会 ホームページのお知らせ

<http://sik.arts.k.com/kjp>

神奈川県スキー連盟のホームページ <http://www.sak.or.jp/> のリンク集からもたぐえます。

各行事の案内をはじめ大会リザルトや特別寄稿などをタイムリーに提供しています。あなたも主役で載っているかもしれませんよ。皆さまのご来訪をお待ちしております。

ラップ賞は15歳



御諏訪太鼓で気合



第20回フェスタ会長挨拶



挨拶は短くタイムは早く



12月は志賀で雪上トレ



「今年も優勝！」 女子パトロール チーム

柴山 俊子



第19回全国スキーパトロール技術競技大会が、2004年3月27日～28日に、岐阜県の朴の木平スキー場で開催された。県単位または、スキー場単位でのエントリーで構成されている。わが神奈川県は、4チームもエントリーし、左記メンバーで大会に臨んだ。

① 神奈川A：山川正一、福井伸治、佐藤和彦、古郡哲也、田原登志子
 ② 神奈川B：三宅秀一、藤居一彦、井上誠剛、林善伸、上杉一哲
 ③ 神奈川C：小川康、唐鎌宏明、南谷誠、和田香奈子、渡邊露子
 ④ 神奈川女子A：石川恭代、山田千鶴、久保田苗美、与口華那、柴山俊子

スキーパトロール技術競技大会の競技種目は、室内競技種目【三角巾】【ロープ】雪上競技種目【フォーメーション】【アキヤ搬送】の計4種目である。【フォーメーション】は、4人一組で、クロスしたりトレインしたり、同じリズムで小回りしたりと指定された距離間でスキー演技をする。斜面の長さや斜度により演技の構成を変化させなければ、観客に感動を与えることができない。そのために大会当日に使用されるバーンで練習し、演技への最後の調整を図る。4人の息がぴったりとなるように調整できるまで、何度となく練習を繰り返す。

【アキヤ搬送】は、5人一組で、上部斜面と下部斜面に分かれており、斜面中間にタッチゾーンが設けられ、第2走者にバトンタッチする。我々のような雪なし県は、雪上でアキヤを使用している練習には限界があり、引ける回数も少ない。練習できるときに集中して引いている。

【三角巾】【ロープ】は、室内競技種目のため雪なし県の得意種目であるはずだが、なかなかクセモノで、大会という場になると舞い上がってしまう、練習時と違う動作になってしまう。そのようなことが起こらないように練習を重ねるわけである。しかし、長時間集中力が持続しないのが人間。一夜漬けが効かないのである。



ただ、みな、さすが本番！という気合いだけでひたすら、やり続ける。しかし、気持ちばかりあせてからだがついていけず、大会前に疲れきってしまったのが現状である。

毎回、感じるのだが、毎日15分の練習をするだけで速さが違うんだけだなあ。しかし、会社でパソコンを打ち続け、帰宅すると、あー疲れたあー寝ようとして、翌朝。えっ、大会当日になっている。

さて、神奈川女子チームは、全チームの注目の的なのです。毎回、探りを入れられ、プレッシャーをかけられている。それもそのはず、毎回、成績は優勝。しかも昨年は室内競技もメダルをさらい、雪上もメダルを取り、圧勝したからです。その分、今年は各選手が抱えるプレッシャーも大きかった。それは、競技当日に現れていた。メン

バーの顔がひきつっているのだ。緊張による手足の汗と、感覚がなくなっていく手足。いよいよ壇上へ、さあ！競技開始である。この緊張がタマラナイのである。

『パト大会の効用』は？と、人に聞かれたら、私は、あまりに夢中になるので、『雑念が消え、ストレス解消』と答える。今の社会、心からだも病んでいます。是非、ストレス解消に我々雪なし県のスキーパトロールの仲間に加わりませんか？みんなで待っています。個人競技のスキーが、団体競技のスキーに様変わりするのも楽しいですよ。もちろん、救急法も勉強になります。いままでと違った視点でのスキーを体験してみてください。きたれ！神奈川県スキーパトロールへ。

編集後記

任期最後のSAKだよりとなりました。ようやく広報委員から解放される？かもしれないという思いと、活動を共にした広報委員のメンバーたちとの別れがとても寂しいとの思いが入り混じっています。

SAKの様々な情報を、素早くお知らせするため、いそがしい仕事の合間をぬって、各広報委員は雪上取材等を行ってきました。大変お疲れ様でした。

来期の新広報委員の方々の活躍を期待しています。

(広報委員長 中里 健二)